受検番号

令和五年度滋賀県立米原高等学校特色選抜

小論文　問題用紙

注意
＊答えは、解答用紙の決められた欄に縦書きで書きなさい。
＊文字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
＊問題用紙、解答用紙はそれぞれ一枚です。
＊原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なぜ大人たちは、若者が本を読まなくなったことを嘆くのか。そう考えると、本を読まなくなったことで失われた、何か大切なものがあるという「前提」が、こうした判断には含まれていることがわかるでしょう。「本を読まなくなると、どんな悪いことがあるのか」「何が失われるのか」。そこまで考えたうえで、このいい古された指摘を納得して、「なるほど、その通りだ」と思うか。それとも、そこまで考えずに「そんなものだろう」といってすませてしまうか。考えることを身につけようとするのであれば、こうした常識に簡単に飲み込まれては困ります。

「本を読まなくなって失われるものは何か」。この問いを少し展開して、「本を通じて得られるもの」と「本でなければ得られないものは何か」を考えてみましょう。もし本でなければ得られないものが少なければ、本を読まなくなったといって非難されることはなくなるはずです。さあ、あなたなら、どんな答えを思いつきますか。

以下は私の答え。たとえば、本を通じて得られるものは、知識、情報、教養、楽しみ、興奮、感動など。それでは、これらのうち、「本でなければ得られないものは?」と考えると、何が残るでしょうか。今や電子メディアの普及で、たいていの知識や情報は、本でなくても手に入るようになりました。活字メディアよりも数段早く、しかも手軽にさまざまな情報を手に入れることができる時代になったのです。

楽しみや感動、興奮にしても、映像・音響メディアの発達から、本でなくても深い感動や楽しみを得ることはできます。むしろ、こうしたものは、発達したＡＶ機器によって本よりも迫力をもって伝えられる時代になりました。原作の本を手に活字を目で追っていくよりも、大画面の大音響のもとで映画化された作品を見るほうが、興奮も感動もずっと大きくなる可能性だってあります。

それでは「教養」はどうか。たしかに、テレビを見ても、コンピュータから得た情報によっても、あるいは講演会や大学の講義などを通じても、「知識」を得ることはできます。「教養」をたんに知識として見れば、なるほど活字メディアでなくてもよさそうです。

それでも本でなければ得られないものは何か。それは、知識の獲得の過程を通じて、じっくり考える機会を得ることにある――つまり、考える力を養うための情報や知識との格闘の時間を与えてくれるということだと私は思います。

他のメディアとは異なり、本をはじめとする紙に書かれた活字メディアでは、受け手のペースに合わせて、メッセージを追っていくことができます。たとえば、今この本を手にしている皆さんは、めんどうくさいやと、一足飛びに別の章を開いたりすることも、斜め読みをして、「もういいや」とこの本を投げ出してしまうこともできます（でも、もう少し辛抱してつきあってください）。あるいは、これまで読んできたところを、もう一度読み返して、この著者がこれから何をいおうとしているのか、予想を立てることもできるでしょう。活字メディアの場合、読み手が自分のペースで、文章を行ったり来たりしながら、「行間を読んだり」「論の進め方をたどったり」することができるのです。いい換えれば、他のメディアに比べて、時間のかけかたが自由であるということです。

（苅谷（かりや）　剛彦（たけひこ）『知的複眼思考法―誰でも持っている創造力のスケッチ』による）

問　傍線部を筆者は何だと考えているか明らかにし、筆者の主張に対するあなたの考えを三六〇字から四〇〇字以内で書きなさい。